

「熊本市下水道浸水対策計画 2023(素案)」に対し意見表明

～ソフト対策を積極的に推進することで市民の防災意識の向上を図るについて意見表明～

一般社団法人日本損害保険協会九州支部熊本損保会（会長：桶本 茂生 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 熊本支店長）では、2023年12月22日付で公表された「熊本市下水道浸水対策計画 2023(素案)」の意見募集に対し、2024年1月19日付で意見表明を行いました。

当該計画は、気候変動の影響を見据えた浸水対策計画を策定し、ハード整備とソフト対策が一体となった内水対策を計画的に進めることで、熊本市民が安心して快適に住み続けられるまちづくりを実現するため策定するものです。

熊本損保会では、前計画からの対策計画の変更点である、気候変動の影響を踏まえたハード整備の対象降雨の見直し、対策地区の選定基準として浸水リスクや新たに都市機能集約度を加えたほか、対策内容としてハード整備のほかソフト対策を講じることにつき賛同したうえで、防災情報を迅速に理解するためには一定の知識が必要であることから、「学校等の出前講座」に関して、計画的かつ網羅的に実施いただきたい旨、次の意見等を表明しております。

《主な意見内容》

P4 第1章 1.2 現在の計画と本計画の違い

今回の対策計画の変更点である、気候変動の影響を踏まえたハード整備の対象降雨の見直し、対策地区の選定基準として浸水リスクのほか、都市機能集約度を加える点や対策内容としてハード整備のほかソフト対策を講じることにつき、時機を得た、科学的かつバランスの取れた改定内容と考え、賛同いたします。

P39～40 第6章 6.2 対象降雨 6.3 対象降雨に対する目標

計画降雨の見直しばかりではなく、市独自に照査降雨L1および照査降雨L2を設定し、ハード・ソフトの対策メニューを講じるほか、明確な対象降雨に対する目標を設定することに賛同するとともに、計画に掲げられている対策メニューや目標は適当であると考えます。

P97 第7章 7.3 ソフト対策のメニュー

ソフト対策のメニューとして、地域・住民・多様な主体の3つの視点に配慮して、フィージビリティを確保しつつ、ソフト対策を積極的に推進することで、市民の防災意識の向上を図ることにつき賛同いたします。

特に、照査降雨L1・L2水準になると「市民の防災意識の向上」によるところが大きいため、「住民等の受け手にとって分かりやすい情報の提供」の観点からソフト対策10「内水ハザードマップの作成・公表」については、積極的かつ迅速にご対応いただきたい。また、情報を迅速に咀嚼するためには一定の知識が必要であると考えており、ソフト対策9「学校等の出前講座」に関しても、計画的かつ網羅的に実施いただきたい。